

厚生労働大臣賞 最優秀賞

企業・団体・自治体等の名称	ら・ふいつとHOUSE 運営委員会	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	広島市佐伯区美鈴が丘
	電話	082-927-0831(NPO 法人悠々自在 代表)
	E-mail	gh-you@sea.plala.or.jp(NPO 法人悠々自在 E-mail)
	ホームページURL	http://yu-yu-jizai.jimdo.com/ ら・ふいつとHOUSE(NPO 法人悠々自在ホームページ)
キーワード	空き家を活用した多様な世代が集う交流拠点、住民同士の新たなつながりによる高齢者の介護予防・生活支援	
取組・事業の名称	空き家を活用したコミュニティスペース 「ら・ふいつと HOUSE」	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>■3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲: 広島市佐伯区美鈴が丘団地</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の背景・経緯

広島市では、都市化や高度経済成長による急激な人口増加と宅地需要の高まりに伴って、デルタ部郊外の丘陵部を中心に、戸建て住宅が建ち並ぶ住宅団地が数多く開発されてきた。その中には、完成から30～40年以上経過しているものも多く、人口減少や高齢化が一斉に進行し、それに伴う生活利便性の低下やコミュニティの希薄化など様々な問題が顕著に現れている。

美鈴が丘団地は、昭和50年代から入居が始まった市内でも有数の大規模住宅団地であり、地域の高齢化、一人暮らしの人の増加による孤立化、世代間交流の減少が問題となる中、「年を重ねても楽しく暮らしていける団地にしていきたい」と活動を計画していた地域住民グループと、団地内でグループホームを運営するNPO 法人の「介護や福祉という枠を超えて、人と人がつながる地域づくりで地域を盛り上げていきたい」という思いが合致し、地域住民とNPO 法人が協働して取組が始まった。

平成24年10月に団地内の空き家を活用し、世代を超えて誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティスペースとして、「ら・ふいつとHOUSE」をオープンさせた。設置はNPO法人、企画・運営は、地域の人約50人とNPO法人が一緒に行っている。

取組・事業の概要と特徴

「ら・ふいつと HOUSE」では、参加する人の状況や性別、年代に応じた様々な切り口での多岐にわたるプログラムが週4日実施されている。

『おしゃべり食堂』は、対象者を限定せず食を通して人の輪を広げる取組。月5回昼食を500円で提供し、参加者が楽しく語らいながら食事をとることができる。

『わいわい健康麻雀』は、「賭けない・飲まない・吸わない」をモットーに毎週火曜日に開催。認知症予防

や、ひとり暮らし男性高齢者の外出のきっかけづくり(閉じこもり予防)につながっている。

『おやこ de カフェ』は、子育て中のお母さん・お父さんの交流の場として毎月第1・第3水曜日に開催。スタッフが子どもと遊んでいる間に、親同士お茶を飲みながら交流することができる。

『なんちゃって手芸部』は、月2回開催し、本格的な手芸講座ではなく初心者から参加できるよう、簡単なものを中心に製作。作りながら会話を楽しむこともでき、地域とのつながりが持ちにくい高齢の女性など幅広い人が気軽に参加できるような雰囲気づくりに努めている。

『男性介護者がつどえるコミュニティスペース』は、一人で悩みや負担を抱えている男性介護者の情報交換の場。地域包括支援センターの職員や介護経験者の参加もあり、必要に応じてアドバイスが受けられる。

取組・事業の成果

「ら・ふいつとHOUSE」は、1か月に約300人の利用があり、様々なプログラムやイベントの開催等を通じて、独居の高齢者の閉じこもり防止など、住民同士のつながりを通じて介護予防・高齢者の生活支援にもつながっている。

また、「ら・ふいつとHOUSE」を訪れる人は、「ここに来れば、いつでも受けとめてもらえる」という安心感や居心地の良さを感じ、笑顔にあふれている。それがスタッフのやりがいにもつながり、より活動が活発になるばかりか、それまで活動に携わっていなかった人達も「自分たちでやりたい！」と参加したり、新たな繋がりができたりと、好循環を生み、更に大きな力となっている。

また、利用者が近隣の方に声をかけ仲間を増やしていくとともに、サービスを提供する側にも回ったりと、提供する側とされる側の隔たりがないことで、居心地の良い居場所として定着しつつある。楽しみに出かけていける場として、また人の役に立てる生きがいを実感できる場になっている。

人と人がつながり、地域力もUPしており、広島市が住宅団地の活性化に向けて目指している「住み続けられるまちづくり」、「多様な世代が集うコミュニティの再生」のための先導的な取組となっている。

取組・事業が生かされた個別事例

① 「わいわい健康麻雀」を通して知り合った A さんと B さん(ともに 70 歳台、男性)は、健康麻雀利用中に妻を亡くしてうつ状態になった C さんのことを気にかかけ、旅行に誘うなど外出の機会を増やすことで、C さんの意欲低下や閉じこもりを防止し、現在も C さんの利用が継続している。

② 初期認知症で麻雀はできるが、「ら・ふいつと HOUSE」に一人で来ることのできない女性 D さんの送迎を男性メンバーが買って出たことで、D さんの利用が継続でき、安否確認の機会ともなっている。

③ 「おしゃべり食堂」を利用した独居の男性高齢者が参加を呼び掛けたことで、同様に独居の男性高齢者が利用することになり、10 名ほどが定期的に食事会を開き、旅行に出かけるなど新たな人間関係を作ることができた。



以上

厚生労働大臣賞 団体部門 優秀賞

企業・団体・自治体等の名称	神奈川県営浦賀かもめ団地自治会健康団地推進協議会	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	神奈川県横須賀市鴨居
	電話	046-842-9710
	E-mail	—
	ホームページURL	—
キーワード	住民による地域の特性・ニーズに応じた取組展開、高齢者等が健康で安心して住み続けられる“健康団地”	
取組・事業の名称	もし認知症になっても、安心して暮らせる町、徘徊しても周りで見守りができる町に！あんぜん安心健康団地	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 ■5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲：横須賀市鴨居地区</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の背景・経緯

- ・高齢化に伴い、孤独死や孤立化等の問題があったが、平成 22 年度に県と共同で「孤独死防止対策等調査事業」を実施した際に、自治会と民生委員の連携により「見守り活動に関する委員会」が設置され、平成 23 年度に県より「県営住宅等支え合い活動モデル調査研究事業」を受託し、ホットタイムなごみの設置、青空市場を実施した。その後、自治会（支え合い活動運営委員会）による自主運営として運営してきた。
- ・平成 25 年度に県の住宅部局・福祉部局の連携により、県営住宅を高齢者等が健康で安心して住み続けられる団地に再生するための「健康団地」の取組がスタートし、当該団地に診療所分院や小規模多機能型居宅介護事業所の誘致を行ったことを契機に、支え合い活動等の実施場所として、県から空き住戸の活用の提案があり、「安心して暮らせる町、徘徊しても周りで見守れる町に」をスローガンに、空き住戸を改修した「ふれあいの家」での活動を中心に、上記の取組を新たにスタートすることとなった。

取組・事業の概要と特徴

(1) 脳と体の若返り塾(コグニサイズ)の実施

県が実施する「コグニサイズを教える研修会」を受講した住民が講師となり、毎週火曜日午前中に団地集会所で開催し、毎週 30 名程度の参加者がいる。複数の講師が参加者のレベルに応じたサポートを行い、“間違えても大丈夫”という雰囲気を作り出している。

(2) 「ふれあいクッキング」の実施

住民の中でも単身者、特に男性単身者にとって課題となっている、食事(孤食・栄養バランスの問題等)に焦点を当て、団地内に設置された「ふれあいの家」において、電子レンジのみで調理できるメニューを一緒に学ぶだけでなく、会話などコミュニケーションの機会とする取組となっている。講師となる団地住民がメニュー

検討から関わっている。

(3)「よろず相談会」の実施

住民自らがワンストップで様々な相談に対応し、関係する諸機関・団体につなぐ役割を担っている。(不定期実施)

※平成28年度から、上記に加え、「ふれあい食堂 かあさんの晩御飯」(子ども食堂の多世代交流版をイメージしたもの)、「明るいエンディング勉強会」に取り組んでいる。

※ほかに、自治会の支え合い活動の取組として、「ホットタイムなごみ」(空き店舗を活用したサロン)の運営、青空市場の実施、「365日朝ラジ」(ラジオ体操)の実施などがある。ラジオ体操は毎朝(雨天時であっても)実施されており、100名を超える参加がある。

取組・事業の成果

- ・「脳と体の若返り塾」(コグニサイズ)は、開始から約1年が経過したが、参加者各自がバランス感覚の向上や機能的な変化を感じられる状態になっている。また、開始当初は計算を伴うプログラムに戸惑いや恥ずかしさを感じていた住民も多かったが、講師役を担う住民が「間違えても大丈夫」という雰囲気づくりやプログラムの実施方法の試行錯誤を繰り返す中で、前向きな取組から笑顔が多く見られるようになり、参加者同士の交流も深まった。
- ・「ふれあいクッキング」は、これまで自治会の支え合い活動などに参加してこなかった層からの参加が見られるようになり、新たな住民同士の交流が生まれつつある。また、簡単にレンジのみで取り組めるレシピを提供しているため、これまで日常の食に対して消極的であった参加者でも、学んだレシピを自宅で複数回再現するなど、食に対して前向きな姿勢が見られるようになった。



以上

厚生労働大臣賞 自治体部門 優秀賞

企業・団体・自治体等の名称	静岡市	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	静岡市葵区追手町5番1号
	電話	054-221-1575
	E-mail	chiikikea@city.shizuoka.lg.jp
	ホームページURL	http://www.city.shizuoka.jp/
キーワード	「S型デイサービス」と「しぞ〜かでん伝体操」による住民主体の介護予防の取組による健康長寿のまちづくり	
取組・事業の名称	「S型デイサービス」と「しぞ〜かでん伝体操」によるまちぐるみの健康長寿の取組	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 ■2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲：静岡市全域</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の背景・経緯

「S型デイサービス」は、平成6年ごろ、旧清水市(現清水区)において介護予防として外出機会の提供の方策を検討していたところ、一部の自治会(地区社協)で地域住民を集めて実施していた交流会をヒントに、他の地区の自治会にも呼び掛けて全市的に取組を広めることとしたものです。平成15年の旧静岡市との合併後は、葵区、駿河区の区域(旧静岡市域)にも取組を広めることとし、市内のほぼ全域での実施に至っています。

「しぞ〜かでん伝体操」は、従来の通所型介護予防教室では、教室終了後に活動を継続できず心身機能の低下が見られることなどが課題となっていたことから、DVDの映像を見ながら身近な地域で介護予防が実施できるよう、平成18年に静岡市版介護予防体操として開発したものです(平成22年に命名)。S型デイサービスでも多く実施されているほか、地域の高齢者が自主的に体操を行うサークル(自主グループ)の立ち上げ支援や、参加のきっかけとなるよう自由に体操に参加できる場の提供等を行い、住民主体の活動を促進しています。

取組・事業の概要と特徴

■概要

各地区社協(小学校区単位)が中心となり、主に地域の高齢者のボランティアが運営する住民主体のミニデイサービス「S型デイサービス」を、地域の公民館や集会場など(253会場)で月2回実施。会場ごとに静岡市版介護予防体操「しぞ〜かでん伝体操」をはじめとする健康体操、健康チェック、ゲーム・歌などのレクリエーション、会食などボランティアが工夫したプログラムを実施。

また、地域の高齢者が自発的に「しぞ〜かでん伝体操」を中心とした介護予防活動を週1回定期的に行うサークル(自主グループ)の取組が広がるよう、自主グループの活動支援(DVD、錘などの貸与、体操指導、

サポーターの養成)や、参加のきっかけとして自由に体操に参加できる場(36か所)の開設等を行っており、現在 42 組が活動(合計78会場)。

■特徴

①地域の高齢者による主体的な運営・活動

地域の高齢者による自発的・主体的な取組であり、参加による心身機能の改善、孤立防止、生活意欲の向上はもとより、高齢者が主体となり運営・活動することで社会参画、生きがいにつながっています。

②地域のつながる力の活用と強化

地域や仲間同士のつながりをベースとして、身近な地域の会場で地域の高齢者が主体的に参加・運営しており、地域や友人・知人の口コミにより参加の輪が広がっています。地域の方々のつながりを強めることで、互いに支え合う地域づくり、自助・互助意識の向上にもつながっています。

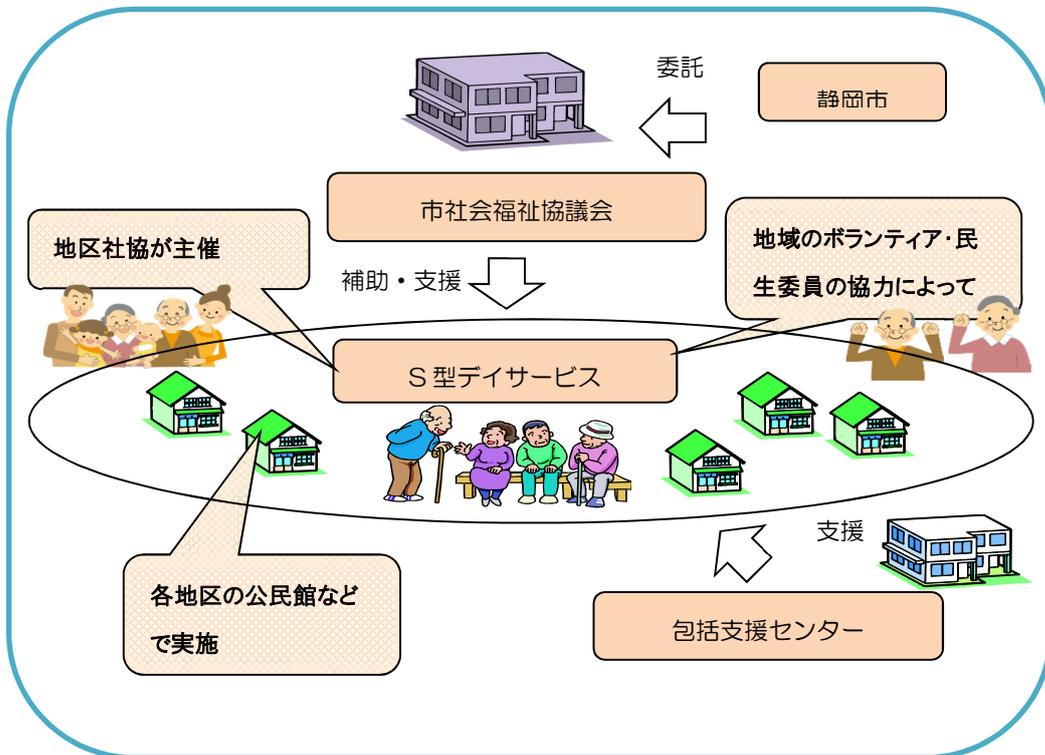
取組・事業の成果

S型デイサービスの実績は、会場数 253 か所、参加人数 6,403 人、ボランティア数 4,073 人(平成 28 年3 月末)となっており、年々増加しています。

しぞ〜かでん伝体操の実績は、会場数 78 か所(自主グループ 42 組、オープンスペース 36 か所)、参加人数 2,910 人(自主グループ 1,561 人、オープンスペース 1,349 人)、サポーター数 672 人(平成 28 年3 月末)となっており、年々増加しています。平成 27 年度の調査によると、でん伝体操を実施している方の約8 割が心身機能の改善を感じており、約 2 割の方が「変わらない」「現状維持ができています」と回答しています。

いずれも、高齢者の心身機能の改善、孤立防止、生活意欲の向上に加え、高齢者の社会参画、生きがいや、互いに支え合う地域づくりにつながっているものと考えています。

以上



厚生労働大臣賞 企業部門 優秀賞

企業・団体・自治体等の名称	東郷町施設サービス株式会社	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	愛知県愛知郡東郷町
	電話	(0561)37-1900
	E-mail	tis@togo-tis.co.jp
	ホームページURL	http://www.togo-tis.co.jp/
キーワード	産官学との連携、町との協働で事業を行う第3セクターの取り組み、自主活動、地域活動に向けての仕掛けづくり、楽しく参加、楽しく継続をモットーに！	
取組・事業の名称	目指せ！シニアの運動継続率100%	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p><input type="checkbox"/>1. 複数の市区町村にまたがる広域 <input checked="" type="checkbox"/>2. 市区町村内の概ね全域</p> <p><input type="checkbox"/>3. 中学校区単位 <input type="checkbox"/>4. 小学校区単位 <input type="checkbox"/>5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:愛知県 愛知郡 東郷町</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の背景・経緯

長寿のまち東郷町は、平成 21 年度から第3セクターである東郷町施設サービス株式会社(以下 TIS)を活用した、健康づくり事業をスタートさせた。平成 26 年 4 月には、東郷町、順天堂大学スポーツ健康科学部と TIS の3者による、健康づくり分野における連携協定を締結し、「健康で元気に暮らせるまち(町の基本目標)」の実現を目指し、特に運動に力を入れた事業を推進している。

高齢者の運動継続は、単に体力を維持・改善させるにとどまらず、参加によって運動習慣を身につけ、健康に自信を持ち、更には自身の生活の充実、自主活動につなげることが可能である。町主催の教室は期間限定のものが多く、終了と同時に運動習慣も絶たれる場合が多い。東郷町の場合、町主催の教室を TIS が管理する公共施設で開催し、その指導も TIS が担えるという土台があり、その特徴を最大限活用してきたことが、本取組みの背景である。

町主催の教室への参加をきっかけに、よりよい運動の場の提供によって運動継続に繋がり、自身の生活の質の向上、更には地域で活躍するためのしきみを構築することで、健康寿命の延伸、介護保険料の抑制・医療費の削減に寄与できるのではないかと考える。

取組・事業の概要と特徴

TIS では介護予防について「1. 町教室への参加をきっかけとする」「2. 継続し参加習慣を維持する」「3. 生活の充実、自主活動、さらには地域活動につなげる」という3段階で捉えた「とうごうモデル」を軸に事業展開している。町の事業特性を理解し、関係部署等と情報を密に直接町民と接することでニーズ把握ができることが、事業展開のベースとなっている。

「とうごうモデル」では、まずきっかけとして第1段階である町の委託を受けた期間限定教室があり、その後第2段階への継続を目的として TIS 独自の教室(受益者負担)がある。ここでは様々な体力レベルに合わせた体

操、水中運動に始まり、口腔ケアや栄養など多種多様なメニューを高齢者のニーズに合わせ年々整備し、今ではシニアだけで 22 種類、週 27 回の教室を開催するまでとなった。自分に合ったメニューを選べる環境で、無理なく楽しく参加継続につながっている。

次の第3段階において、さらなる活動的な状態、つまり本人が意欲や自信を持って、他の TIS 教室への参加のみならず、自主活動やボランティア活動など関心のあるものに参加を広げ、そのパワーが地域に持ち帰られ、地域活性化につながっている。

特に、第1段階から第2段階への継続が重要と捉え、TIS 独自の教室が通年常設されていることは、高齢者の運動継続に大きな役割を果たしている。

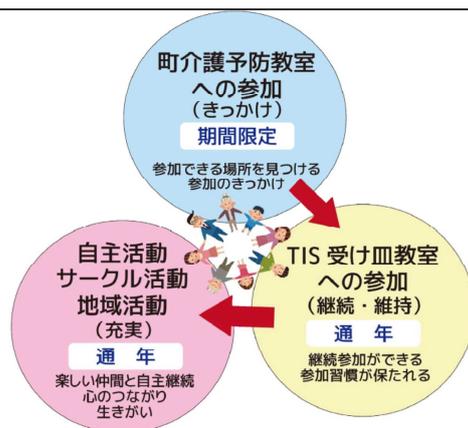
取組・事業の成果

第1段階として実施している教室のうち、「はつらつシニア運動教室(運動機能)」では、本取り組みによって運動習慣が生まれ、第2段階の TIS 教室への継続率も平成 25 年度 95%、平成 26 年度 82%、平成 27 年度 87%と高く安定している。一方、「おいしく食べよう！ひまわりクラブ(口腔・栄養)」では、運動への関心が低く、運動を中心とした TIS 教室への継続に至らず、平成 25 年度は継続率 39%と低かった。

その後検討を重ね、ひまわりクラブ終了者限定の「やまぼうし(フォローアップ)」を整備した。町主催の教室と同様の、曜日・時間、場所、内容(仲間づくり重視の調理や口腔体操等)で同スタッフを配置し、同じ仲間と集える場を提供した結果、平成 26 年度 87%、平成 27 年度 80%と継続率が向上した。ここでは、隠し味的に運動メニューを取り入れ、自然な形で運動習慣もつくることができた。

これにより、家に閉じこもりがちだった高齢者が積極的に外出され、介護疲れの大きかった高齢者にも笑顔が増えたりする等多くの良い変化がみられた。自ら運動継続を望まれ、現在も TIS 教室だけでなく、自主的に運動習慣を継続されている方が増え、その方が指導者になるケースもあった。第1段階から第3段階にまでつながった、まさに「とうごうモデル」である。

今後も、「とうごうモデル」を軸とした取組みで、これまでの教室データの学術的な分析、より楽しく参加、楽しく継続できるスタッフの現場力で、シニアの運動継続率 100%を実現させたい。



以上

厚生労働省老健局長賞 団体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	iikoto メイト	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	山口県宇部市
	電話	0836-21-6665
	E-mail	huzimoto.iikoto@kce.biglobe.ne.jp
	ホームページURL	http://www7b.biglobe.ne.jp/~iikoto/
キーワード	「身体に・脳に・心に・地域に iikoto(いいこと)」を日替わりで行うご近所福祉の拠点	
取組・事業の名称	ご近所福祉サロン活動	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 ■4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲： 山口県宇部市常盤小学校校区</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

少子高齢社会の中で、元気な高齢者を目指して努力してきた地域の大正琴のグループが、宇部市の呼びかけで認知症予防プログラムに挑戦した。その活動の中で継続の重要性を認識し、「脳に iikoto」「身体に iikoto」「地域に iikoto」そして「大正琴の iikoto」の思いを込めた「iikoto メイト」を団体の名前とし、平成22年12月より本格的に活動を始めた。自分たちが目指す高齢者支援活動の指針となる宇部市ご近所福祉サロン推進事業に沿った活動をするにあたり、代表者の自宅倉庫を改装、いつでもだれでも集える拠点として開放し、活動を継続している。

現在、毎月20日程度の活動を実施。専門職の指導による体操やスクエアステップなど介護予防を目的とした活動や絵手紙作成など生きがい、仲間づくりを目的とした活動、七夕の飾り付けといった子ども主体のイベントまで幅広い内容を提供しており、昨年度では延べ人数で3800人の方が参加した。活動のための人材を地域から発掘することで本人の生きがいや元気づくりの他、経費削減にも繋がっており、活動継続における支えともなっている。

活動費の捻出も構成員や参加者からのアイデアを取り入れ、助成金や支援金に大きく頼らない活動をしており、地域住民からも支持されていることから様々な協力を得ることができている。

地域包括支援センター、行政機関、医療法人等と協働し、人材の相互派遣により多種多様なプログラムを展開している。

以上

厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	有限会社 ケアサービス米子 鳥取ふれあい共生ホーム 照陽(てるひ)の家	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	鳥取県米子市
	電話	0859-22-3332
	E-mail	info@careservice-yonago.ecnet.jp
	ホームページURL	http://www.careservice-yonago.ecnet.jp/
キーワード	住み慣れた地域で、住み慣れた我が家で自分らしく暮らし続ける事を理念に掲げひとりひとり、ひとつひとつを大切に支援していきます。	
取組・事業の名称	鳥取ふれあい共生ホーム 照陽(てるひ)の家	
活動範囲	下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。 □1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域 □3. 中学校区単位 ■4. 小学校区単位 □5. 自治会単位 具体的な範囲(米子市義方・湊山・啓成・住吉地区)	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

鳥取ふれあい共生ホーム「照陽(てるひ)の家」は、平成23年4月に小規模多機能型居宅介護と保育所を同じ屋根の下に併せ持つ施設として開設した。現在の地域や核家族の在り方を振り返りながら、より良い世代間交流・コミュニケーションの形態をはじめ、住み慣れた地域で馴染みの関係を切らずに暮らし続ける事について、看取りまでを含めた支援の姿を摸索してきた。

平成25年には、施設内の地域交流室を更に拡大し、運営推進会議を通して地域課題を吸い上げ、互助の考え方による協力体制を構築してきた。その中で、法人としての自治会への加入は、回覧板等地域の情報を得ることができるようになり、公民館活動や運動会等へ利用者が自発的に参加するきっかけを作りやすくなった。さらに、職員が地域の在宅福祉員として役割を担うと共に、区内一斉清掃へ参加し、職員自身の住民意識を高めてきた。

また、認知症サポーター講座・健康講座をはじめ、地域の方々も一緒に楽しむ絵手紙や布草履教室、住民参加の照陽祭りの開催等、利用者と地域住民が交流を深めるために、様々な出会いの場を設けている。さらには、次世代育成として、小学校と連携し継続的に「福祉を学ぶ授業」や出前講座を実施。夏休み等には、就労体験として、キッズヘルパー(小4～中3)の受入れを行っている。

共生ホームは、高齢者・児童・地域住民が出入りできる施設であり、相互に協力していくことで尊厳が尊重され、誰もが気持ちよく暮らすことのできる地域作りが、照陽の家にとっての「地域包括ケアファイナルゴール」と考えている。

以上

厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	有限会社ヌマタ	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	静岡市清水区
	電話	054-353-2428
	E-mail	numata555@marble.ocn.ne.jp
	ホームページURL	—
キーワード	高齢者に配慮したお弁当、宅配時の1分間無料サービス、認知症予防につながるミッケルアートの配布	
取組・事業の名称	地域の高齢者の健康寿命の増進と生活を見守る配食サービス	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 ■2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲：静岡市全域（山間部を除く）</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

■取組の概要

高齢者向けのバランスの良い食事を在宅の高齢者に安否確認をしながら年中無休で配食

年中無休で1日だけでも1食から、昼夕どちらでも心をつなぐお弁当をお届けする。

宅配クック123のFCチェーンとして、認知症サポーター養成講座を受講した配達員が宅配しながら、安否確認やミッケルアートを使用したコミュニケーションを行い、高齢者の生活を15年間見守るとともに健康寿命の増進に寄与している。

■取組の特徴

- ① 利用者の約6割は独居高齢者のため、お弁当の配食だけでなく、見守りのサポートや話し相手になることで、ちょっとした気付きをキャッチ。
- ② お弁当のお届け時に、1分間の無料サービスを実施。
(おかずの刻み具合を自由に指定、寝室までお弁当をお届け、薬の確認、エアコンの温度設定確認など)
- ③ おかずのきざみ、アレルギーに対する食材変更。
- ④ 配達スタッフ全員が認知症サポーター養成講座を受講し、見守りや安否確認を行う。
- ⑤ ミッケルアート(認知症予防の効果が期待できる昔の生活を描いた絵)を配布し、利用者から昔話や思い出話をお聞きする。

以上

厚生労働省老健局長賞 団体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	地域づくり任意ボランティア団体「夢ランドひふみ」	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	熊本県玉名郡和水町
	電話	0968-34-2814(代表携帯:090-3192-1996)
	E-mail	otezo@m01.fitcall.net
	ホームページURL	http://hihumitei.jimdo.com/
キーワード	できる人が、できることを、できる時に、先ずはやってみよう。高齢者の高齢者による高齢者のための介護予防活動。	
取組・事業の名称	地域在宅者介護予防事業「ゆるっと！ ひふみ亭」	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 ■5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲： 和水町十町地区(中十町、山十町、上十町の3行政区)</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

地域の高齢者が歩いて集まれる古民家(ひふみ亭)で取り組み始めたふれあい活動「ゆるっと！ひふみ亭」は、4年目を迎えた。年間20回程度の開催で参加高齢者、支援スタッフ、ボランティアゲストが集い、延べ500名を越える参加体験活動である。介護認定の有無にかかわらず昼食代、おやつ代を含め1回500円で参加できる。参加者全員が、楽しめ笑顔いっぱいの活動である。午前中は、血圧チェックの後、ストレッチや振付体操、ゲーム、脳トレなど健康づくりを行い、昼は、みんなで支援スタッフ手作りの季節料理をおいしくいただく。この季節料理がゲストへのお礼でもある。午後は、スタッフも一緒に物作りやゲストの演芸などを見て楽しんでいる。おやつ後は、「ゆるっと！ひふみ亭」小唄をみんなで歌い踊り一日が終わる。参加高齢者は、集い語り合うことで、暮らしの悩みや不安を解消し、笑顔になりいきいき元気に帰宅する。支援スタッフやゲストは、自分の特技や趣味が活かされ役に立てることが生きがいであり自らの介護予防となっている。平成26年度からは、買い物や調理困難な在宅高齢者に日替わり宅配弁当による食の支援活動も始めた。高齢者に関わるいろいろな団体、機関との連携を深め取り組んでいるが、最も活動の支えになっているのは、支援スタッフがこれまで地域で築いてきた人と人のつながりである。ひふみ亭は、誰もが気軽に集える地域の縁がわである。

以上

厚生労働省老健局長賞 自治体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	加賀市地域包括支援センター	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	石川県加賀市
	電話	0761-72-8186
	E-mail	kokoro@city.kaga.lg.jp
	ホームページURL	http://www.city.kaga.ishikawa.jp/
キーワード	住民にとって身近な場所で、地域住民・介護保険事業所・行政が連携し運営する介護予防活動。	
取組・事業の名称	地域まるごと はつらつ大作戦!!	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 ■4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲: 石川県加賀市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

これまで市内介護保険事業所でおこなっていた介護予防活動を平成 27 年度より地区会館など住民にとってなじみのある会場で実施する事となった。

事業立ち上げにあたり、市内の各まちづくり推進協議会(小学校区の市が提唱するまちづくり運動を推進するために組織された団体)に地区の実情や事業実施にあたっての意向調査をおこない、要望があった地区に対して、事業所を公募し、事業開催となる。また、開催前には、地域ケア会議を実施し、地区の実情やどういった事業展開がいいかを話し合い運営開催をむかえた。行政の一方的な事業実施ではなく、地区が予防の必要性を感じ、地区・事業所・行政の全員が同じ方向性に向かって事業を開催することで継続して行える事業になっている。

従来の介護保険事業所が中心となり運営していた事業から、地域住民が主体となり、介護保険事業所・行政が一体となり運営していく介護予防活動になっている。内容としては、週 1 回、機器なし筋トレや認知症予防などに取り組んでいる。また、全ての参加者に軒下マップ(これまでのつながりや大切にしている事、強みなどを示したもの)を作成し、本人の「したい事」の実現をめざした運営をしている。参加する事で、体力の向上や運動習慣の定着、閉じこもり予防などにも効果が出ている。また、参加者だけでなく地域の協力員にとっても予防活動の場、役割作りの場でもあり、地域に目を向け考える機会にもなっている。

以上

厚生労働省老健局長賞 団体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	小松市健脚推進ボランティアの会	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	石川県小松市
	電話	0761-24-8168
	E-mail	長寿介護課<kaigo@city.komatsu.lg.jp>
	ホームページURL	なし
キーワード	高齢者の憩いの場「いきいきサロン」での体操を中心とした地域ぐるみの介護予防	
取組・事業の名称	みんなでしよっさ！こまつ健脚体操	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 ■2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:小松市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

“ みんなでしよっさ！こまつ健脚体操 ” を合言葉に

- 小松市健脚推進ボランティアは、要介護の原因の上位を占める 筋力低下による転倒・骨折を予防するために、市で制作した「健脚体操」を地域に普及し、地域ぐるみで介護予防に取り組むことをめざして、平成 15 年に活動をスタートした。
- 歩いて行ける町の公民館を会場に実施されている 高齢者の憩いの場「いきいきサロン」において、健脚体操のほか、その後市で制作した「健腕体操」「健口体操」「口コモ体操」等を指導。またサロン未実施地区への働きかけやサロン運営等にも力を発揮している。
- 現在では、週 1 回のサロンは市内の約 8 割の町内で実施され、サロン登録者も高齢者人口の約 2 割にまで増え、高齢者の貴重な運動と社会参加の場となっている。平成 27 年度には、要介護認定率が、初めて国・県平均を下回るなどの成果を挙げている。
- 平成 18 年に会として組織化され、現在では会員 464 名と大きな組織となり、エリアごと（全 5 地区・24 班）に活動を進めているほか、3 つの部（活動部、広報部、研修部）で役割をもって活動するなど、自主的・意欲的に取り組み、会の活性化とさらなる研鑽に努めている。

以上

厚生労働省老健局長賞 団体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	小杉爆笑劇団	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	富山県射水市
	電話	0766-56-1078
	E-mail	—
	ホームページURL	http://kosugi-bakusyogekidan.com
キーワード	寸劇を通して楽しくわかりやすく学ぶ介護予防や認知症など、地域とのつながり	
取組・事業の名称	寸劇を通じて介護予防啓発活動～「笑う門にはほんまに福来る」をモットーに	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>■1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:富山県射水市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

「笑う門にはほんまに福来る」をモットーに、主に射水市内の高齢者、実際に介護をされているご家族、介護の専門職等へ、楽しくわかりやすい寸劇を通して、介護予防、認知症高齢者への接し方、悪質商法への対応等に関する啓発活動を行っている。

公演は、地域包括支援センター、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員等と連携して、市町村主催の介護予防教室、老人クラブの会合、介護従事者研修会などで実施しており、年間50回を超えている(県外での実施も含む)。

介護など高齢者の生活上の課題への対応のしかたは、講演等の形式では理解が難しいことから、劇を通して伝えたいという思いで、家族介護者教室で演じたのが活動開始のきっかけである。

公演の内容は、おじいちゃん(よしお)、嫁(よしこ)、息子(せいしろう)の配役で悪い接し方を演じ、参加者にどこが悪いか意見を出してもらい、次により接し方を演じるなど、より理解が深まるよう工夫している。参加された高齢者からは「楽しい劇で元気になった。また来るよ。」等の感想が数多く寄せられているほか、今では、地域に出掛けると、配役の名前で呼ばれるほど浸透している。

また、自分たちと同じように、地域のために継続的に劇団活動をしてみたいといった全国の団体に対し、無償で台本を提供しており、その数は400を超えている。

地元の高齢者の方がいつまでも元気で自立した生活を送ってもらえるように、今後、更なる地域ネットワークを構築・拡大しながら公演を行い、笑顔を地域の皆様に届けます。

以上

厚生労働省老健局長賞 自治体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	袋井市	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	静岡県袋井市
	電話	0538-84-7534
	E-mail	chiikihoukatsu@city.fukuroi.shizuoka.jp
	ホームページURL	http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/kenko_iryō/
キーワード	多職種・多機関の連携体制構築、総合相談窓口、居場所づくり、認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム設置	
取組・事業の名称	赤ちゃんから高齢者まで、みんなで元気にしあわせに！ 市民みんなで人生トータルの健康づくり！「は〜とふるプラザ袋井」	
活動範囲	下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。 □1. 複数の市区町村にまたがる広域 ■2. 市区町村内の概ね全域 □3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位 具体的な範囲：袋井市	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

■取組の概要

保健・医療・介護・福祉の各部門が集約した「袋井市総合健康センター（は〜とふるプラザ袋井）」を、平成27年5月に地域包括ケアシステムの拠点として開設。施設内には行政機関の他、社会福祉協議会、聖隷袋井市民病院、休日急患診療室がある。誰もが住み慣れた地域で健やかに自分らしく暮らし続ける地域包括ケアシステムの実現のために、関係機関が連携しながら、地域住民と共に様々な健康づくりや介護予防などの活動を実施している。

■取組の特徴

① 施設内の行政部門と社会福祉協議会で連携し「総合相談窓口」を開設

保健師や看護師、主任介護支援専門員や社会福祉士など多職種を配置して、「心をこめた」総合相談を実施。相談内容により地域包括支援センターなどの関係機関と連携。

② 居場所「おんないカフェ」の実施

ボランティア「お元気サポーター」メンバーにより施設内の交流スペースで月に1回居場所「おんないカフェ」を実施。毎月20～30人ほどの参加がある。ひとり暮らしの高齢者や、時には赤ちゃんや子供づれのお母さんも参加。世代を超えた交流があり、開催日には市内の障がい者の授産施設によるパン販売も実施。

③ 施設内で月に一回認知症カフェ「は〜とふるカフェ」を開催

保健師や看護師、ケアマネなど市職員の他、聖隷袋井市民病院の相談員（看護師）や認知症キャラバン・メイト、精神保健福祉士なども参加。認知症の方や家族、認知症について心配な方などが参加し参加者どうしの交流の

厚生労働省老健局長賞 自治体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	大東市保健医療部 高齢支援課	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	大阪府大東市谷川1丁目1番1号
	電話	072-870-0513(直通)
	E-mail	koureisien@city.daito.lg.jp
	ホームページURL	—
キーワード	あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり	
取組・事業の名称	大東元気でまっせ体操	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p><input type="checkbox"/>1. 複数の市区町村にまたがる広域 <input checked="" type="checkbox"/>2. 市区町村内の概ね全域</p> <p><input type="checkbox"/>3. 中学校区単位 <input type="checkbox"/>4. 小学校区単位 <input type="checkbox"/>5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:大東市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

大東元気でまっせ体操事業は、虚弱高齢者が元気になる通いの場所を、元気な住民が主体となり取り組んでいる活動であり、介護予防事業として市内各地で実施されている。市は、年2回の体力測定や高齢者の自立生活に必要な講話等の支援を行い、民生委員、自治会などの連携のもと、地域高齢者の自立・見守りに大きく貢献している事業である。

参加住民は、支えられる側から支える側にまわることで、生きがいや自信につながっている。また地域住民同士の交流が活発となり、認知症予防や閉じこもり予防につながっている。元気な高齢者と虚弱な高齢者が交流することで、自然な形で生活支援や見守りの目が育ってきている。



以上

場、相談の場となっている。

④ センター内に「認知症初期集中支援チーム」を設置

併設する市民病院との連携の強みを発揮して多職種がチームを組み、認知症が疑われる人や認知症状があるものの医療や介護保険サービスなどにつながらず困っている方などを訪問し、受診につなげたり、医療やサービスなどの導入につなげるなどの支援を集中的に行っている。

以上

厚生労働省老健局長賞 団体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	大利根マロニエ会	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	前橋市大利根町
	電話	027-252-8751
	E-mail	—
	ホームページURL	—
キーワード	買い物支援、居場所づくり、 元気な高齢者が、支援を必要とする高齢者を支える「支え合い体制」の構築	
取組・事業の名称	地域住民の支え合いによる買い物支援・居場所づくり	
活動範囲	下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。 □1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域 □3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 ■5. 自治会単位 具体的な範囲：前橋市大利根町	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴(600字以内を目安にしてください)

前橋市の南西部に位置する大利根町は、昭和41年に大型住宅団地として造成され、団地内にはショッピングセンターをはじめ、十数件の商店が軒を連ねていましたが、近隣に大型店舗が出店したため、現在ではほとんどが閉店しています。

また、大利根町(1丁目・2丁目)は、高齢化率39.3%(平成28年3月現在)と、前橋市内でも高齢化が進んだ地域であり、車の運転ができずに、日常の買い物に支障をきたす高齢者が少なからずでてきていました。

こうした状況に気にかけて田中興一さん夫妻が中心となり、町内の元民生委員等に声をかけるなどして、大利根マロニエ会は、平成23年7月に賛同する約20名により発足しました。

大利根マロニエ会の主な取組は、高齢者に対する買い物支援とサロン(居場所)の運営です。

毎週水曜日、15名前後の利用者が、大利根公民館に集まり、会を運営するボランティアにより、近隣のスーパーマーケットへの送迎・買い物の補助を行うほか、地域の高齢者が集まれる憩いの場所をつくりたいという考えから、買い物に行く前には、集まった高齢者たちが、お茶を飲んだり、会話を楽しむことができる、サロン(居場所)の機能も持たせています。

さらに、サロンでは、会話を楽しむということだけでなく、行政機関等と協力し、健康教室や消費者講座を開催するなど、参加する高齢者が安心して暮らせるよう、様々な工夫を凝らしています。

大利根マロニエ会は、支える運営者側も高齢者であり、元気な高齢者が、支援を必要とする高齢者を支える、支え合い体制を構築し、地域包括ケアシステムの一翼を担っています。

※ 会の名称であるマロニエ(柺の木)は、大利根町の街路樹に由来します

以上

厚生労働省老健局長賞 自治体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	八千代市 健康福祉部 健康づくり課	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	千葉県 八千代市
	電話	047-483-4646
	E-mail	kenkou4@city.yachiyo.chiba.jp
	ホームページURL	http://www.city.yachiyo.chiba.jp/
キーワード	住民主体・運動習慣・地域交流・役割の創出	
取組・事業の名称	やちよ元気体操を取り入れた住民主体の介護予防	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>□1. 複数の市区町村にまたがる広域 ■2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:八千代市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

本市では、高齢者の心身機能の維持や住民同士の交流促進、高齢者の生きがいがづくりに繋げることを目的に、体操を取り入れた住民主体の介護予防を推進している。

これまでの経過としては、平成 17 年度に転倒予防を目的とした「やちよ元気体操（以下、体操）」を作成。この体操を取り入れた住民主体の介護予防に資する人材を「やちよ元気体操応援隊（以下、応援隊）」と名付け、平成 18 年度から応援隊の養成と活動支援を行っている。応援隊は自治会館や公園などの身近な場所を会場として自主グループを発足し、週 1 回程度、地域住民が集い体操を継続している。応援隊を中心とした自主グループは平成 28 年 6 月末現在 58 グループ（屋内 49 / 屋外 9）となり、応援隊の活動は市内に広がっている。

自主グループの参加者を対象としたアンケート調査では、身体機能の変化以外にも地域交流や精神面での良好な変化が見られた。体力測定の結果からは低体力群において有意に改善する傾向を認めている。取組の中心を担う応援隊からは「活動を通じて出会った方々が元気になっていく姿・明るく変わっていく姿を目の当たりにする事で、やりがいや喜びを感じる」等の声を聞くことができ、高齢者の生きがいや地域における役割の創出にも繋がっている。

以上

厚生労働省老健局長賞 自治体部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	北九州市保健福祉局地域福祉部認知症支援・介護予防センター(愛称:アシスト21・ひまわりセンター)	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	福岡県北九州市小倉北区
	電話	(093)522-8765
	E-mail	ho-ninchicenter@city.kitakyushu.lg.jp
	ホームページURL	http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/ninkai-center/
キーワード	地域づくりの支援、専門職団体や地域団体との6者協定、地域活動の担い手との協働、アウトリーチ	
取組・事業の名称	認知症支援や介護予防の地域での活動を支援する拠点の開設 「北九州市認知症支援・介護予防センター」の取り組み	
活動範囲	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p><input type="checkbox"/>1. 複数の市区町村にまたがる広域 <input checked="" type="checkbox"/>2. 市区町村内の概ね全域</p> <p><input type="checkbox"/>3. 中学校区単位 <input type="checkbox"/>4. 小学校区単位 <input type="checkbox"/>5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲: (北九州市全域)</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

北九州市は、政令指定都市の中でも最も高齢化率が高く、平成32年には高齢者人口がピークを迎える予想されており、認知症本人や家族への支援が強く求められている。認知症や介護予防事業が実行性のあるものとなるためには、高齢者自らが健康づくりに継続的に取り組める環境づくり、地域で支えるための人材育成や情報発信に取り組むため、福岡県と共同して平成28年4月に北九州市認知症支援・介護予防センター(愛称:アシスト21・ひまわりセンター)を開設した。

北九州市認知症支援・介護予防センターの役割の基本的な考え方として下記の3本の柱を掲げている。

1 『たくさんの“思い”を共有する』

認知症の支援や介護予防の様々な関係者(市民や地域団体、民間企業等)が志や思いを共有し、力を合わせることにより、科学的知見や価値観、ライフスタイル、社会的経済的状況などに応じ柔軟な運営を行う。

2 『地域活動の支援と人材育成』

当事者団体や多職種が連携し、個人や地域活動団体の主体的な取り組みの支援を行うとともに、それに必要な人材育成を行うことにより、アクティブシニアが地域活動の担い手として活躍する環境づくりを行う。

3 『大学や企業と拓げる新しい取り組み』

地元の大学や企業などと地域が協力して、健康づくりやヘルスケアの新しい技術や取り組みを積極的に取

り入れた、地域をフィールドとして用いた実証・研究の場を提供する。
これらの実現のため、北九州市認知症支援・介護予防センターを拠点として、連携協定を結んだ団体相互に協力しながら運営を行っている。

以上

厚生労働省老健局長賞 企業部門 優良賞

企業・団体・自治体等の名称	矢崎総業株式会社	
企業・団体・自治体等の詳細情報	所在地	静岡県裾野市
	電話	055-965-0633
	E-mail	smb_kamifuusen@jp.yazaki.com
	ホームページURL	http://www.yazaki-group.com
キーワード	同社が運営するグループホーム・デイサービスの利用者と社員、地域ボランティア、市民等との交流 企業ならではの地域に密着した取組	
取組・事業の名称	人とともに、地域とともに、わたしたちができること	
	<p>下記より該当のものを一つ選択し、□を■に変更。</p> <p>■1. 複数の市区町村にまたがる広域 □2. 市区町村内の概ね全域</p> <p>□3. 中学校区単位 □4. 小学校区単位 □5. 自治会単位</p> <p>具体的な範囲:静岡県裾野市</p>	

取組・事業の概要

取組・事業の概要と特徴

■取組の概要

矢崎総業の敷地内に、研究所や部品製作所、福利厚生施設、社宅、保育園、介護事業所(グループホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所)等が一体的に整備されているため、日頃から介護事業所の利用者と社員、社宅の子ども達、保育園児、近隣のボランティア等の交流がさかんで、企業ならではの地域に密着した取組みが行われています。

■取組の特徴

① 交流がさかん！

グループホーム・デイサービスの利用者と保育園児、社宅の子ども達、矢崎総業の社員、高校生ボランティア、地域のボランティア等が年間を通じて積極的に交流を行っています。

② 地域とも連携！

グループホーム・デイサービスが行うお祭りやレクリエーション等の行事を、利用者の家族等だけでなく、矢崎総業の社員や行政、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、学生ボランティア、地域ボランティア、近隣の方々に向けても広く発信し、地域に開かれた事業所を目指しています。

③ 人材育成も！

モデル的な取組として、グループホーム・デイサービスの現場で働きながらヘルパーの資格が取得できるように支援したり、海外事業所(ベトナム、インドネシア等)の研修生の学びの場としてグループホーム・デイサービスが活用されています。

以上